

## 1. 劣化ウラン弾に関する京都新聞の社説

社説：劣化ウラン弾供与 非人道性に懸念を拭えない



米国がウクライナへの新たな軍事支援として、健康や環境面で懸念される劣化ウラン弾の供与を決めた。

国際条約が禁じる殺傷能力の高いクラスター（集束）弾も既に提供している。道理のない無謀な侵略を続けるロシアへの対抗とはいえ、非人道的な兵器の使用拡大は看過できない。

劣化ウランは核兵器製造や原子力発電で使われる濃縮ウランをつくる過程で生じる放射性廃棄物だ。比重が重く、砲弾の芯に使えば貫通力が増し、戦車などの装甲を貫く破壊力がある。

ただ、重金属としての毒性に加え、さく裂した際に放射性物質が微粒子となって飛び散り、人体に入り込んだ場合は体内被ばくを引き起こす恐れがある。土壤汚染も否定できない。

英国は米国に先駆け、主力戦車チャレンジャー2用の弾薬としてウク

ライナに供与しているが、米国は初めてだ。

ウクライナ軍が反転攻勢を始めて3カ月になる。戦況の膠着（こうちやく）が続き、米国は月内にも戦場に到着する米軍の主力戦車エーブラムスからの発射を想定し、ウクライナの領土奪回を後押しするのが狙いとみられる。

しかし、ロシアは「核成分」を備えた兵器だと主張し、反発を強めている。実際、英国の劣化ウラン弾供与時、対抗措置として同盟国ベラルーシへの戦術核兵器の配備に着手した。

米軍や英軍は「人体への影響はない」として、その危険性を明確に認めていない。だが、国際原子力機関（IAEA）などは破片を取り扱った場合に放射線を浴びる危険性を指摘する。

劣化ウラン弾は、湾岸戦争やイラク戦争でも大量に使用された。その地域で白血病などの発症率が高ま

り、米軍帰還兵に放射線被ばくと似た「湾岸戦争症候群」が生じ、劣化ウラン弾に起因するとの見方は根強い。

在日米軍基地にも配備され、1995～96年に沖縄県の無人島で米軍が行った実弾射撃訓練で、大量に「誤射」されていたことが発覚し、その毒性が問題となつたことがある。

広島県内の七つの被爆者団体は「非人道的な核兵器の一種で、製造も保有も、使用は無論のこと許されない」との声明を出し、供与中止を訴えている。核の残虐性を身をもつて知るだけに抗議は当然であろう。

ロシアの侵略にこそ責任があるのは自明だが、新たに要らざる口実を与えるかねない。対抗して戦術核を用いれば、核戦争を誘引する危険性すらあり得る。

戦争の終わりが見えない中、双方が武器の増強を競えば、戦闘の激化を招く。劣化ウラン弾の使用はウクライナの戦後復興にも支障を来しかねない。

唯一の戦争被爆国である日本は、劣化ウラン弾禁止を働きかけ、平和国家としての責任を果たすべきだ。

## 2. クラスター爆弾の生産工場の前で反戦集会

**Covert Action Magazine**

**August 25, 2023**

**クラスター爆弾の生産工場の前で反戦集会  
(バイデン大統領の故郷ペンシルバニア州スクラントン)**

**Citizens Rally Outside Artillery Factory in President Biden's Hometown that Produces Parts of Cluster Bombs Destined To Kill Eastern Ukrainians and Russians**

<https://covertactionmagazine.com/2023/08/25/citizens-rally-outside-artillery-factory-in-president-bidens-hometown-that-produces-parts-of-cluster-bombs-destined-to-kill-eastern-ukrainians-and-russians/>

By Jack Gilroy

「クラスター爆弾はベトナム戦争の後に、少なくとも6万7千人のベトナム人を殺した」



ベトナム上空でクラスター弾を投下する B52。これらの爆弾は、数十年経った今も子どもたちを不具にし、殺し続けている。



「Veterans for Peace」(NYC) 会長の Susan Schnall が  
ペンシルベニア州スクラントンの軍需工場前でスピーチ

7月22日、多くの平和活動家がスクラントン軍需工場へ赴き、ウクライナ人と米国大統領が最も欲しがる兵器を非難した。それはクラスター

爆弾。そのために、ここでは砲弾の中に子爆弾の粒を入れるという作業を行っている。



デモ参加者が手にするのは参加者が手にするのは 155 ミリ榴弾砲。左手に持つ子爆弾を中に詰める。

ベトナム戦争中、近くのスクラントン大学の学生たちは、「屠殺場」の外で抗議活動を行った。その後の数十年間、ジェネラル・ダイナミクス社の施設で抗議活動が行われた記録はない。

それが今度は、反戦活動家たちがバーモント、バージニア、ニュージャージーから車でスクラントンまでやってきた。それからロングアイランド、ニューヨーク市、マサチューセッツ州、コネチカット州、ピットsburgh、ニューヨーク州北部からもやって來た。

### 「子供たちの悲鳴が夢で聞こえて」

ウクライナのゼレンスキーは、ロシア軍と最後のウクライナ人まで戦うつもりだ。そのために、より多くの武器を求めて西側諸国を訪問している。で、バイデン政権は、ウクライナにクラスター爆弾を売却することに同意した。

クラスター爆弾は、ベトナム戦争ではその致死性の高さで知られていた。それだけではない。子爆弾は皮膚を貫通し爆発し、人間の苦痛を最

大化するように設計されている。恐怖の爆弾だ。

それだけではない。戦争終結後、少なくとも 67,000 人のベトナム人が不発クラスター爆弾で負傷した。ラオスやカンボジアでも数千人が負傷している。

元米陸軍心理戦将校で国務省対テロ分析官のスコット・ベネット氏は、スプートニクに次のように語った。

ウクライナにおけるクラスター爆弾が用いられれば、その結果は暴力的で無差別な民間人の殺害、家や財産の

破壊だ。そしてそのさきずっと、子供たちの悲鳴という悪夢に悩まされることに他ならない。

米国がウクライナに送ろうとしているクラスター爆弾の最大の危険性は、それが 20 年も前に製造されたものであることだ。だから不発率が非常に高く、おそらく 10~20% 以上に達するであろう。

つまり、これらの爆弾は不発弾としてウクライナ全土に放置され、無防備な民間人が踏んで爆発させるのを待つことになる。



2003 年 5 月、ヒューマン・ライツ・ウォッチのチームがバグダッド北部の畑で発見した子爆弾。ウクライナに移送されたクラスターと同じタイプの子爆弾（の不発弾）。

7月22日にスクラントンに抗議に集まった人々は、たとえ小規模であったとしても、重要な政治的主張を行なった。

参加者の一人はこう言った。たしかに砲弾工場で働く人たちも、他の人たちと同じように家族を養わなければ

ばならない。しかしそれでもやはり、爆弾の犠牲者のことを考えるべきだ。

彼らは戦争経済の代わりに平和経済を構築するために、地域社会の中でもともに活動するべきだ。



宗教者のプラカード「平和をもとめる合唱に加われ」

後方はトランプ派のデモ。その中の2人が平和集会に合流した。

米国最大の砲弾メーカーを非難し、そのことで、軍国主義の色濃いこの地域独特の雰囲気に疑問を投げかけることは、冒澆的な行動に見えたかもしれない。

スクラントン大学は、陸軍弾薬工場から歩いて数分のところにあるカト

リック系の大学で、ROTCプログラムを通じて大学生に「殺しの技術」(the art of killing) を訓練している。

ペンシルベニア州北東部の大学10校が、スクラントン大学の訓練に学生を派遣している。



軍事訓練中の学生たち

中略

.....

スクラントン・グループは、「死の商人」集団のひとつにすぎない。彼らは米国に数多く存在する、洗脳され、力ネに洗われた集団である。この地域は歴史的に民主党が多く、現在の下院議員マット・カートライ

トは下院進歩議員連盟のメンバーである。

私たちは、スクラントンの文化がいかに軍国主義や死の商人たち、そして彼らの息子であるジョー・バイデンを深く支持しているかを痛いほど知らされた。



「No NATO No War！」

この集会に参加したスクラントンの人数は 10 人に満たなかった。そのうちの 2 人はトランプ支持者で、私たちの集会にトラクター・トレーラーを横付けした。

地元のテレビ局は私たちのイベントを報道するよう要請されたが、どこも報道しなかった。スクラントン・

タイムズ・トリビューン紙のカメラマンが一人来て、集会の写真を撮つたが、日曜版には掲載されなかつた。

我々はスクラントンをあきらめない。その善良な人々は、彼らの町の中心にある死の家よりも良いものを手に入れる価値がある。（後略）